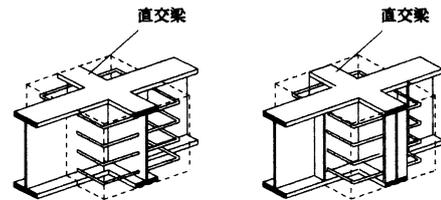


<p>【技術の名称】 大林組 R C S 接合構法 －各種補強要素を用いた梁貫通型RC柱S梁接合部 構法－（改定2）</p>	<p>性能証明番号：GBRC 性能証明 第06-07号 改2 性能証明発効日：2018年10月9日</p> <p>【取得者】 株式会社大林組</p>
---	---

【技術の概要】

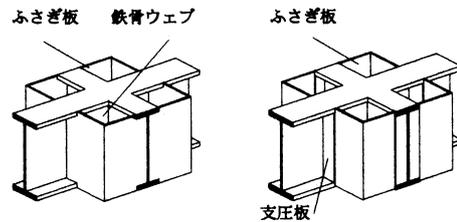
本技術は、柱を鉄筋コンクリート（RC）造、梁を鉄骨（S）造とし、帯筋またはふさぎ板を用いるとともに、X、Y両方向の鉄骨（H形鋼）梁を貫通させた柱梁接合部を構築するための構法である。本構法では、建築物の設計条件に応じ、各種補強要素を選択できるようにしている。補強要素には、ふさぎ板、支圧板および突起鋼管がある。支圧板は、柱梁接合部コンクリート面に一致するようにH形鋼梁の上下フランジとウェブの内面に接合した鉛直リブプレートであり、突起鋼管は、柱梁接合部の上下柱にそれぞれ埋め込まれ、鉄骨梁の交差部に溶接接合した補強要素である。また、本工法では、プレキャストコンクリート外殻の内側に現場打ちコンクリートを充填した外殻PCa柱を用いることもできる。



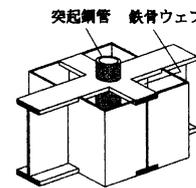
主として鉄骨ウェブとコンクリートでせん断力に抵抗するタイプ

【改定の内容】

- 新規：GBRC 性能証明 第06-07号（2006年7月4日）
改定1：GBRC 性能証明 第06-07号 改（2014年11月25日）
- ・適用する建築物の高さを60mに拡大
 - ・軸力制限を追加
 - ・柱幅と梁幅の比の制限値を追加
- 改定2：GBRC 性能証明 第06-07号 改2（2018年10月9日）
- ・段差梁の規定を追加
 - ・梁せいと柱せいの比の規定を追加
 - ・T字型接合部に機械式定着を用いる場合の仕様を改定
 - ・コンクリートの支圧応力度、支圧耐力式を修正
 - ・短期許容せん断耐力式を修正
 - ・現行法規に合わせて設計ルートを修正
 - ・耐力式の評価に参照した既往の公表論文データを追加



主として鉄骨ウェブとふさぎ板とコンクリートでせん断力に抵抗するタイプ



注：各接合部形状には直交梁がない場合を含む

図1 対象とする接合部形状

【技術開発の趣旨】

本技術は、各種補強要素を選択することによって、工期および施工費用の制約条件の下、設計条件に応じた合理的な柱RC造、梁S造の建築物を実現することを意図して開発されたものである。

【性能証明の内容】

本技術についての性能証明の内容は、以下の通りである。

申込者が提案する「大林組 RCS 接合構法 設計施工要領書」に従って、設計・施工されたRC柱S梁接合部は、同要領書で保証する長期荷重時、短期荷重時および終局耐力時の要求性能を満足する。

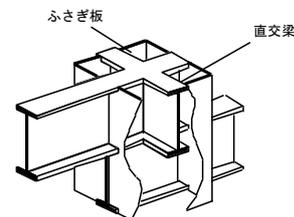


図2 段差を有する接合部形状の例

【本技術の問合せ先】

株式会社大林組 技術研究所 担当者：増田 安彦
〒204-8558 東京都清瀬市下清戸 4-640

E-mail：masuda.yasuhiko@obayashi.co.jp
TEL：042-945-1018 FAX：042-945-0904